みんなのための住民登録

住民の実態調査

八月に実施

みなさんの住所を公証するのが住民登録で、この制度は昭和二十七年七月から実施され、日本に在住し日本の国籍を有するものは、住所地の市町村長に必ず住所の登録をしなければならないことになっている。

ところで、住民登録は、学令簿、選挙人名簿はもちろん、衛生や、国保、年金とあらゆる行政の基礎資料として活用されるばかりでなく、登記事務や、運転免許、扶養証明など住民の権利、義務に関することがらや日常生活に必要な証明資料として、戸籍とともに住民の暮しに切っても切れない深い関係のなかにある。

住民票の謄、抄本、居住証明、扶養証明などは、住民登録をしていないと、交付されないから市外、市内をとわず住所を移したとき、世帯主を変更したとき、世帯を続合、分離したときには、必ず十四日以内に住民登録の届出（転入、転居、変更）をしなければならない。

もし、期間内に届出をしないときは、五百円以下の過料に処せられるから注意すべきである。

この、八月には住民の実態調査を行なうことになり、その準備をすすめている。

実態調査は、ひとり住民登録のみでなく、選挙権の資格の調査もあわせて行なうものであるから、調査にあやまったり調査員に、あやまった申し出でをすることなく、ありのままを、正しく届け出ることが大切である。

郵便の災害と簡易保険はなし

最近、毎日のように交通事故など不慮の災害による死亡が、新聞、その他で報道されている。昨年中の不慮の災害死は、全国で三八、一二七人、四国で一、五四五人となっており毎日全国で一〇〇人、四国で四人の災害死を出していることとなる。

これを四国各県別にみると愛媛四八九人、高知二七五人、徳島二四二人、香川三三九人と一県当り一日一人ないし二人の災害死を出している。お互に、このような不幸な災害は起こさないよう、じゅうぶんに注意しければならないが、人生には、どうしても避けることのできない場合もある。身近かな惨事として、二月二十六日の「ときわ丸沈没事件」のごときは、乗客はどうすることもできず、実に一瞬にして、四七人という尊い命を失った。このかたがたのほとんどは一家の大黒柱となって働いている人たちであったと聞いている。幸か不幸か二一人の実態調査は、ひとり住民登録のみでなく、選挙権の資格の調査もあわせて行なう普通の保険金の二倍がご遺族の方に支払われた。

このように郵便局の簡易保険は、加入後二年たてば、万一不慮の災害で死亡された場合は、自動的に保険金の倍額が支払われることになっている。これは特別の保険料を払い込まないで、保険金五〇万円の加入で一〇〇万円の倍額支払いを受けることができる。三七年中の簡易保険の倍額支払いは、全国で約一二、〇〇〇件で六億円、四国では五二二件の三千三十五万円にのぼる倍額保険金を支払っている。

しかしまだまだ災害死されたかたがたのうち、三分の二は簡易保険に加入していないため、倍額支払いはおろか一円も受けることができず、一家の働き手を失いたいへん困っておられる、遺族の方が多いといわれている。万一の場合に、残されたご家族が路頭に迷うようなことのないよう、経済生活の備えをじゅうぶんにたてられ、将来の家庭生活を心配のない、明るく楽しいものにしておくため、国が経営する郵便局の簡易保険に加入し、不慮の災害に備えようではないか。

傍聴席から

六月定例議会の場合、議員の出席がわるく、やっと開会できるほどだった。

会期中に出席しない理由を常識的に判断すると▽本人の病気または家族や身寄りの大病▽突発的または手が離せない事故。

というように、きわめて局限されると思う。ところがこれまでに市の議会では議員が早退する場合「ちょっと用事ができた」といってすがたを消すものが多かった。

また仕事のため―といって遅れるものもあった。

六月議会が歯が抜けたようになったのも、こんな理由ではないかと、カンぐられてもしかたがなかろう。

また従来は開会中に、電話で席を立つものがなんと多かったことか。これは議場の空気をみだす原因の一つともなっていた。

かつて〝くわえタバコで議決したものがあったこともこの際付け加わえておく。

議員は開会中にちょっとした私用のため出席しない（早退などふくう）というようなことがあってはならない。

立候補前に、開会中は私用をなげうつ―心構えを持つべきである。

まして一般議員でも月額一万五千円（議長らは多い）とその他の費用、年二回はボーナスを市の職員と同じようにもらっている。市職員の勤務ぶりばかり、論議すべきでない。市議は、市民が「どうぞ」といって雇ったものではない、たとえ行政機構上必要なものであるとしても。市民の負託にもっと添うようにすべきである。

〝議員らしい議員〟にはすまないが、あえて一文を呈する。

（M）

これが市議のすがたか

広報委員の一人として議会に関することや、農道の補修、衛生問題など市民に関係深いことがらが、論議されていた。議員さんのなかには、私達素人にも簡単にわかりやすく、声もめいりょうな人もあれば、傍聴席ではききとりがたいほどの低音の人もいる。また質問の要旨が重複しているようなのも数多くあるように思った。

始めチラ、ホラもたれかかって勉強していた議員さんえないが第一に感じたことは、出席議員数のことである。数えたところ十五名だった。その後議員さんの出入がある度数えてみたが、私のいた間の最高は、十九名であった。

机の上の名札が倒れているのはなにかの用件で出かけている人の意味ではないかと考えていたが、そうでないらしい。

質問されていることは、長雨対策に関することや、農道の補修、衛生問題など市民に関係深いことがらが、論議されていた。議員さんのなかには、私達素人にも簡単にわかりやすく、声もめいりょうな人もあれば、傍聴席ではききとりがたいほどの低音の人もいる。また質問の要旨が重複しているようなのも数多くあるように思った。

始めチラ、ホラもたれかかって勉強していた議員さんも、われわれをみてかどうかしらないが、小休後はピリリときんちょうしたようにも思われた。やはり市民は議場を見守る必要が大いにあると考える。

自分の意見を発表したのちすぐそそくさと議席を放れ去ったようにみうけられる議員もあったようだ。

議員の出席数の少ないのをみても二十名以下でもよいと思った。

ともかく議員さんたちは、私たち市民の代表であるから大いにがんばっていただきたい。

編集後記

▽沢本氏からよせられた「教育雑感」に対する反響は大きく、この問題に対し中田氏ほか数氏から、貴重なご意見が広報に寄せられています。

▽そのご意見の主な要点は私塾に対す批判であり、クラス全体の向上をねがう声が多い。

▽広報では、教育問題、とくに塾問題について、関係者、PTAの人々や、教育に熱心な人々に集っていただき話し合いをもちたいと、まえまえから考え、計画を立てていますのでよろしくおねがいします。

▽せっかくよせられた中田氏らのご意見もその席で論議されるものが多かろうと考え、あえて割愛させていただきました。

ブラジル　開拓残酷物語

―見聞記―

テレビで人気物の三バカ大将のヒール残酷物語、映画では武士道残酷物語や世界残酷物語などと残酷物語ブーム？　そこで今度はブラジルでの残酷見聞記を一筆。

万里の波濤を蹴って、日本人が渡航しブラジルの原始林に開拓の斧をとってから五十数年経った。今でこそ文化の波は奥地の町から村え行き渡ろうとしている。しかし開拓の裏には残酷な悲話が秘られている。

そのうち最も悲惨を極めたのは、平野運平氏によって創始された平野植民地であった。

1914年、２カ月の実地踏査後、イロエステ線ペンナ駅より14kmドラード河対岸地に（４千60町歩の）広大な原始林を購入し、外人耕地に在住している各県人の、入植希望者２百数10家族から20余名を選抜して、1915年８月３日平野氏自らこれら先発隊を率いて入植した。先発隊によってその広大な原始林の中に仮小屋が造られた。本隊が到着できるように牛馬の通る道もあけられた。また本隊を収容する収容所もできた。目のまわるような忙しさだったが、地主になれることを思えば、疲れも忘れて、みな喜こもの狂いで働いた。用べりの山を伐り開いて次年度の食糧を確保するため米を蒔きつけた。まもなく本格的な雨期になって米は予想以上にのびて貧しい植民者達を喜ばせた。米がとれるという期待だけでも皆の胸をふくらませた。当時食べ物といえば、トウキビ粉か木のいもの粉とブラジル豆、それに椰子の木の芯ばかりで、飲み水は川水を利用していた。

外人耕地（コーヒー園）で待機している入植家族は、植民地建設が軌道の手で着々と進められているのを知って、心は既に耕地になかった。仕事も手につかなかった。

そこで耕地には間金を払ってその年の12月までに結局28家族が平野氏の連絡を待たず、耕地を出て植民地に移転して来た。一度収容所に入った82家族は自分の土地に入るまでという誓りで、それぞれ用べりに２坪位の小屋を建てて入った。後でわかったのだが日本人は皆、水に便利の良い用べりに住居したので、悲惨なマラリヤ病に犯された。

理想郷を築くために疲れも忘れてみな張り切って働いた。

その年の暮、まもなく植民者の中に奇妙な熱病がはやり始めた、皆は首をかしげたがマラリヤと気付く者は一人もいなかった。最初の犠牲者は高知県人文野勝馬の妻であった。高熱のため衰弱し切って枯木のように痩せ細り、一週間程ウワゴトばかり言い続けて息をひきとった。

まさか命まで奪う病気とは思っていなかった。82家族はようやく不安を感じ初めた。正月をすぎる頃、病魔にたおれる者はますます多くなった。一家枕を並べて寝込んでいる家も珍しくなかった。栄養をとることが出来ないから余計衰弱がひどかった。むしろマラリヤより栄養失調で死ぬ者が多かった。

伊藤　洋　（つづく）

簿記講習会

案内

1. とき　7月29日より10日間（後免７時―９時）。
2. ところ　後後免野田小学校。
3. 講師　高知青色申告会、成亥　明弘先生。日進商事藤田宏先生。
4. 講習科目　初等科（簡易簿記）中等科（複式簿記）
5. 受講料　無料
6. 受講希望者は７月27日までに南国市商工会（電２２７４　有線１５８―１）または、支部役員へ申込むこと。

糖尿病及び腎臓病

澤本幸正

島外性の腎臓の都合が悪くて糖の出るのは別に食餌の制限の必要もなくインシュリンのお世話になならなくてもよいものである。従って、一概に糖尿病といっても、それが生命の危険をかくし持てる奴から、全く無害のものまである。

こういった区別はやはり医者に検査して貰って、一体どこが悪くて、糖尿病を起しているかをつきとめて貰い、また、その程度等を検査して、その後の治療方針を打ち立てる必要がある。

故に糖尿病の全ての患者は、先づ入院して、充分の検査をうけ、然る後にその治療方針を樹立するのが一番宜しかろうと思う。

さて、私自らの糖尿病とそれに対してとった態度、それから現在に至る迄の経過を述べて見たい。ことわっておくが、これは私の様な老人性の糖尿病についてであり、若人で始まる、些かたちの悪い糖尿病でないことを先づご承知願いたい。

私の病気は全く私自らは気がつかなかった。同僚の一人が「お前の様に酒ばかり食らっていると、腎臓も犯されて、糖尿病になるぞ」と注意してくれたことから始まる。残念なことにこの人のいった通りよりもう少し前から、私のランゲルハンス君は仕事を怠けていたのだった。

私は慌てた。日では「平気平気」といって見たものの毎朝家人にかくれて、調べて見る尿の中には想当な量の糖が発見される。なるほど、夜半に目がさめて、水を沢山のむことは、酔いさめの水と思っていたが、どうして、渇症につきものの口渇という奴であり、尿の量が多いのは、酒のせいだと思っていが、これとて、糖尿病のための多尿であったのだ。医者の不養生を地て行った訳である。

そして、まあ、どうも書き難いことだが、性欲についても泥酔しているからと思っていたのだが、どうも年と共に去りぬ所のさわぎでないらしいことに気がついた。ある時は、ありまのすさびに、憎くかりき、なくてぞ、人の恋しかりける。失われた健康についての郷愁が私をせめさいなんだ。

そして、私は意を決して、一年間で、この病気とおわかれしようと思い、教科書の通りの食餌にしたり、血液の糖や尿の糖の定量をして、それほど重大な疾病に迄はいってない。私の糖尿病と組むことになった。

夜の往診は一切ことわり、適当な肉体的労働となるべく、頭をつかうことから離れていった。

私の家には、その時一年間夜の往診をやめると書いたものが、私の不精から未だに取り除かれずに残っている。しかし、私の涙ぐましい努力にもかかわらず、私の病気はよくなってくれない。

（未完）

商工会だより

内職（女子）募集

大篠（大津西窪）の山内銃砲製作所では内職者（銃銃調刻）を募集している。

年令17才から35才
女子　10名

詳細は同製作所へ（電二四四二）

女工（編物）さん募集!!

☆職種　輪田式毛織手袋
☆給与　練習中　250円　熟練後　350円～450円
☆申込先　南国市役所内市民課
☆対象　勤労意欲のある女子（年令不問）
☆場所　南国市立西部公民館二階
☆内職　別に内職者若干名　収入　120円―130円